

月次県内経済

概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

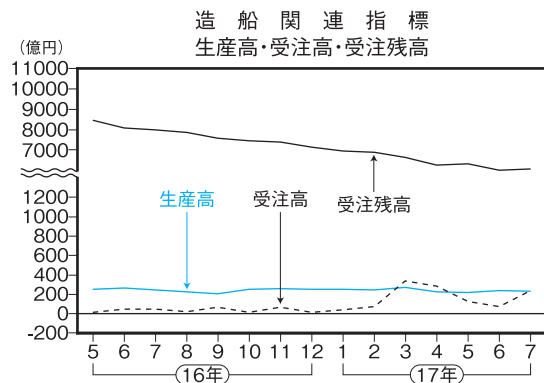
〈8月〉生産面では大手・中堅造船は既往受注により概ね高めの操業を維持、重電機械も堅調、電子部品は持ち直し続く。需要面では、公共工事請負金額が増勢、新設住宅着工戸数は持ち直し。個人消費では大型小売店販売額が弱含み、乗用車（登録車）販売台数は増加傾向。観光面は、主要施設の入場者数、宿泊者数とも堅調推移。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台となり、人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。9月入り後も生産・投資が底堅く、観光面は持ち直しが続く。

造船

大手・中堅、地場中小とも一定以上の操業を維持

大手・中堅造船では、新造需要は海運市況を反映して低調。生産面ではガス運搬船、省エネ船など高付加価値船を含めて受注残を確保していることもあり、一定の操業を維持している。

地場中小造船でも、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



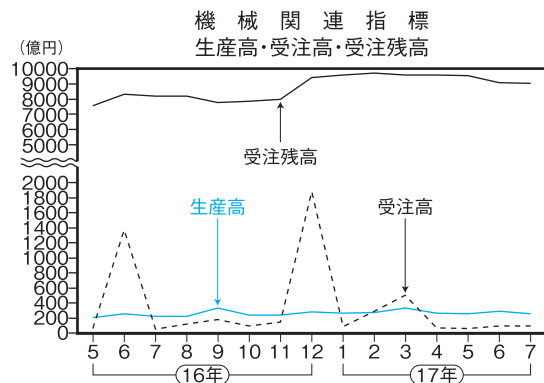
資料：日本銀行長崎支店

機械

重電機械は堅調、電子部品は持ち直しの動きも

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は新興国の需要を背景とした海外プラント関連に加え、国内でも一定の受注を確保。列車空調装置は受注持ち直しの傾向。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境のなか、持ち直しの動きもみられる。



資料：日本銀行長崎支店

小売商況

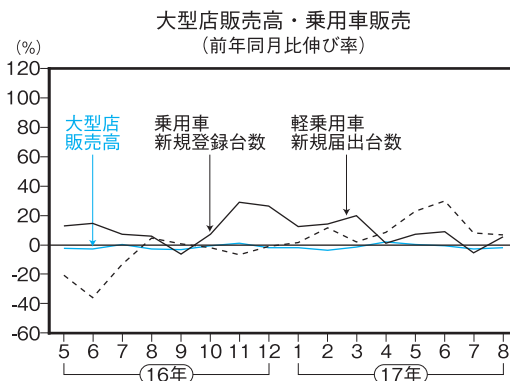
概ね横這い圏内の動き

小売商況をみると、8月の県内大型小売店販売額は前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車ともプラス、サービス消費面の旅行取扱高は小幅減。9月度の大型小売店等の売上げについては比較的底堅く推移。

8月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は88億円、前年同月比2.0%減（同一店舗比較）と3カ月連続のマイナスとなった。品目別では、飲食料品が0.5%減にとどまったものの、主力の婦人服等が7.4%減、紳士服・洋品5.3%減、身の回り品2.8%減など衣料品全体で6.4%減、家庭用品等は前年並み。このうち、百貨店では、衣料品が低調も、身の回り品、家庭用品、食料品、雑貨は堅調。スーパー・大型店等では、飲食料品で動きがみられた。一方、コンビニやドラッグストア等専門量販店は、堅調な売上が続いている。

乗用車販売では、8月の**新規登録台数**は1,509台、前年同月比5.5%増と2カ月振りのプラス。うち普通車も7.7%増の726台、小型車も3.6%増の783台。また、軽自動車は1,411台、6.7%増（9月：45.0%増）となり、8カ月連続の増加。軽を含む総販売台数でも2,920台、6.1%増と11カ月連続の増加。

サービス消費面では、8月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が1.6%減と小幅ながら2カ月連続の前年割れ。うち国内旅行が3.5%減、海外は4.7%増となった。



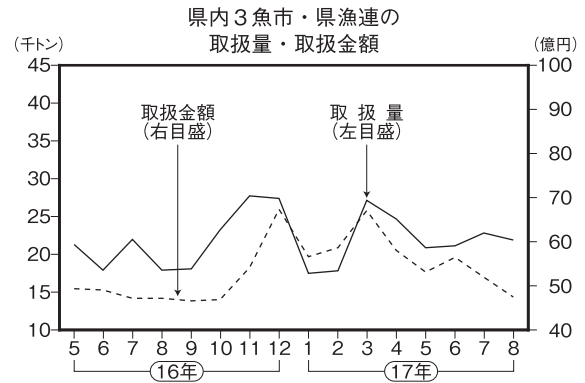
資料：九州経済産業局、日本自動車販売協会連合会、長崎県軽自動車販売店協会

水産

取扱量、金額ともに増加

8月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量**は2.2万トン、前年同月比22.7%増となり、**取扱金額**も47億円、同0.8%増と前年を上回った。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比19.0%増加したが、単価が48.9%下落したことから、金額は39.3%減となった。一方、サバも数量が38.4%増加したことから、単価が20.9%下落したものの、金額は前年を9.5%上回った。



資料：長崎魚市場、佐世保魚市場、西日本（松浦）魚市場、長崎県漁業協同組合連合会

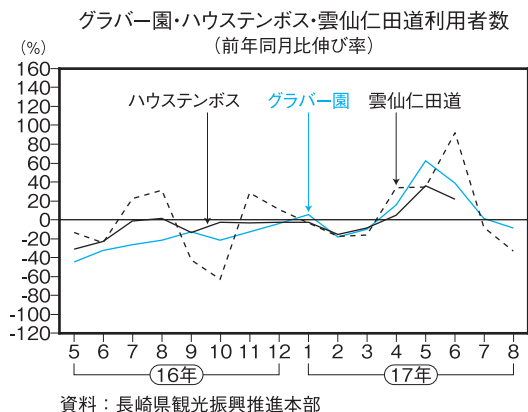
観光

主要施設の入場者数は前年並み、宿泊客数は増加

8月の県内観光をみると、熊本地震対策として昨年展開された政府の観光復興キャンペーン「九州ふっこう割」の反動があるなか、主要観光施設の入場者数は微減にとどまり、主要宿泊施設の宿泊客数は増加した。

主要観光施設等（13施設）の入場者は821千人、前年同月比0.2%減となった。地区別にみると、県南地区ではグラバー園（8.4%減）が前年割れも、映画「沈黙－サイレンス－」効果が続く遠藤周作文学館（86.3%増）と企画展「未来の遊園地」が好評の長崎歴史文化博物館（81.2%増）はともに大幅増となり、長崎原爆資料館（1.0%減）もほぼ前年並みとなった。また、島原半島では島原城（4.6%増）が増加したものの、雲仙岳災害記念館（21.5%減）と雲仙仁田道（33.1%減）はともに減少した。一方、県北地区は九十九島パールシーリゾート（0.7%増）が微増となったものの、ハウステンボスと平戸城（4.1%減）は減少した。離島地区では、堂崎天主堂（8.2%増）、一支国博物館（12.2%増）、万松院（1.9%増）いずれも増加した。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比2.4%増加した。地区別にみると県南地区が2.7%減となったものの、県北地区は7.0%増加した。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、熊本に近い雲仙地区の宿泊客数は23千人、前年同月比31.5%減と大きく減少したものの、小浜地区は14千人、同5.1%増と9カ月連続して増加した。



資料：長崎県観光振興推進本部

公共工事

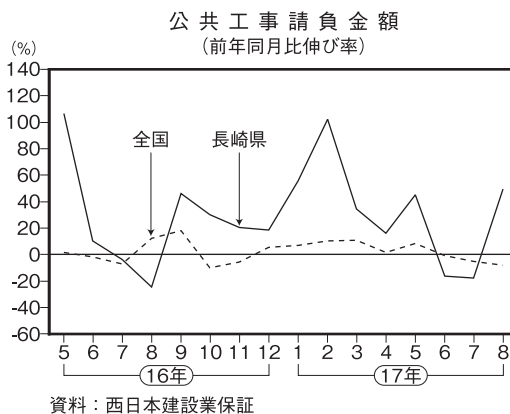
請負金額、3カ月振りの増加

8月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は433件、前年同月比0.2%減と前年並みであったが、**請負金額**は210億円、同49.4%増と3カ月振りに前年を上回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（57億円、3.7倍増）、「県」（50億円、12.8%増）、「市・町」（87億円、15.1%増）いずれも増加となった。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、**県北地区**（51億円、76.4%増）、**長崎地区**（32億円、44.5%増）、**諫早地区**（29億円、13.4%増）など9地区。一方、**上五島地区**（2億円、73.1%減）は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、（福）壱心会発注の特別養護老人ホーム壱岐のこころ新築工事（14億円）、九州防衛局発注の大村埋立等工事（13億円）、松浦市発注の松浦市地方卸売市場松浦魚市場再整備工事（2件、11億円）など。



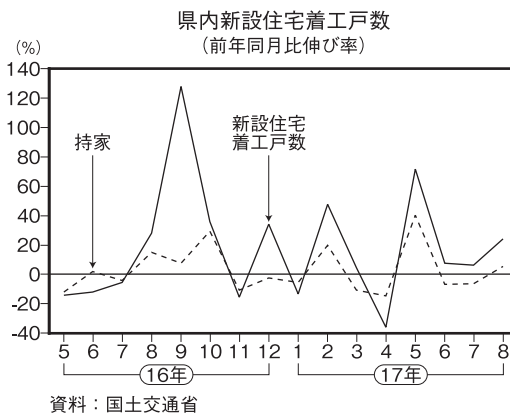
住宅建設

持ち直しの動き続く

8月の**新設住宅着工戸数**は792戸、前年同月比24.1%増（以下同じ）となり4カ月連続して前年を上回っている。

利用区分別にみると、**持家**が272戸で21.4%増、**貸家**が363戸で48.2%増、**分譲**が154戸（うちマンション130戸）で5.5倍増などいずれも前年同月を上回る。

主な市郡別（県建築課調べ）では、**長崎市**（260戸）など2市郡が前年と同数、前年実績を上回ったのは**諫早市**（143戸、2倍増）、**大村市**（115戸、2.7倍増）など8市郡、下回ったのは**佐世保市**（164戸、6.8%減）など7市であった。



雇 用

緩やかな改善傾向続く

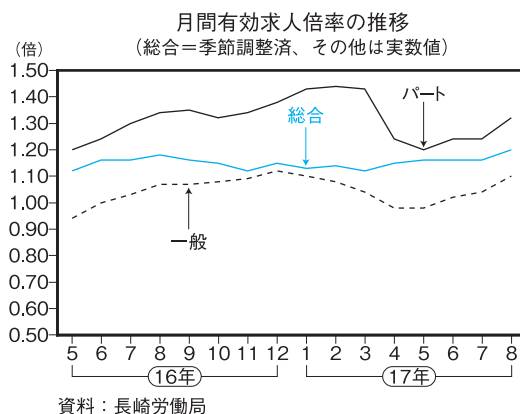
8月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.04ポイント上回る1.20倍に上昇した。1.2倍台となるのは1992年2月以来。また、全国の有効求人倍率は前月と同水準の1.52倍となった。

新規求人数は10.4千人、前年同月比3.3%増となり、2カ月振りの増加となった。形態別では、一般求人が2.3%増と2カ月連続の増加、パート求人は4.7%増となり2カ月振りの増加。主な業種別にみると、教育・学習支援業（53.2%増）とサービス業（21.0%増）では大幅に増加、製造業（6.7%増）、医療、福祉（3.3%増）なども前年を上回り、飲食店、宿泊業（11.4%減）、運輸業（10.8%減）などは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は6.0千人、前年同月比0.1%減となり3カ月連続のマイナス。形態別では、一般求職者が1.9%減、パート求職者が3.7%増となった。

また、**有効求人数**は27.9千人、前年同月比2.4%増となり32カ月連続のプラス、**有効求職者数**も23.7千人、前年同月比1.1%増と3カ月連続して前年を上回った。

就職件数については、2.2千件、前年同月比4.3%減と2カ月連続の減少。また、**雇用保険受給者実人員**は引き続き減少傾向を辿っており、当月も5.8千人、前年同月比3.6%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産

低水準続く

9月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比3件減の2件にとどまり、14年11月以降、35カ月連続して一桁台が続いている。

一方、**負債総額**は前年同月比91.3%減の3.7億円と、71年の集計開始以来、8番目に少ない金額となった。

倒産件数を業種別にみると、2件とも建設業で、倒産原因はともに「販売不振」。

